

JFM だより

Vol. 17

※JFMとは、
Japan
Finance Organization
for Municipalitiesの略称です。

INDEX

- JFMトピックス … P1
- 融資の実 茨城県つくばみらい市 … P5
みらい平コミュニティセンター
- がんばる公営競技 浦和競馬 … P9
- JFM債のご紹介 … P11
- 自治体ファイナンスよもやま話 … P13
- 地方支援ダイアリー … P15
- 基金運用ひとくちメモ … P17
- JFM人事交流日記 … P18
- 私たちがJFM債買ってます！ … P19
- JFMからのお知らせ … P19



今号の表紙

茨城県つくばみらい市 みらい平コミュニティセンター



Feature1

茨城県つくばみらい市
みらい平コミュニティセンター



伸びゆく新しい街を象徴する 地域コミュニティの拠点

平成18年に誕生したつくばみらい市は、その前年に開業したつくばエクスプレスのみらい平駅を市の中心部に持ち、都心への利便性にも優れた街です。その駅周辺、みらい平地区の人口増加に合わせ、平成26年11月に開設された「みらい平コミュニティセンター」は、子育て家族をはじめ、幅広い世代に利用されている地域の交流を育む施設です。



会議・研修室



全国屈指の人口増加率 つくばみらい市

茨 城県の南西部に位置するつくばみらい市は、平成18年に伊奈町、谷和原村が合併し誕生しました。市内には鬼怒川と小貝川が流れるなど、緑と水の豊かな自然に恵まれ、茨城観光100選に名を連ねる桜の名所「福岡堰」を始め、関東三大不動尊である「板橋不動尊」など、多くの観光名所もあります。また、東京都心から40km圏に位置し、平成17年には東京都の秋葉原駅と茨城県のつくば駅を結ぶ首都圏新都市鉄道「つくばエクスプレス」が開業し、つくばみらい市のみらい平駅から秋葉原駅まで最速約40分で結ばれ、都市機能も拡充され、首都近郊都市として急速に発展・変貌しています。

平成24年度のつくばみらい市の人口増加率は茨城県内で第1位、全国でも第6位と高く、特にみらい平駅周辺では茨城県主体によるまちづくりが進み、マンションやショッピングセンターなども整備され、今後のさらなる発展が期待されています。

旧伊奈町と旧谷和原村にまたがるみらい平地区の人口増加に伴って、地域住民の交流、文化活動の拠点となる施設の設置を願う市民の声が高まり、平成26年11月に、つくばみらい市の合併の象徴ともいえる「みらい平コミュニティセンター」が開設しました。



地域の子育て世代に対応した施設を

つ くばみらい市では、「子ども達に誇れるまちづくり」を市政方針の1つに掲げ、子どもや子育て世代の支援に力を入れており、みらい平コミュニティセンターもその役割を担っています。「みらい平地区の居住者は若いご家族の割合が高く、小さなお子さんをはじめ、お母さんやお父さんが利用しやすい施設、情報交換できる場所であることを大きなコンセプトとして、このコミュニティセンターは開設されました。」(つくばみらい市教育委員会生涯学習課 八木勝則課長補佐)

みらい平コミュニティセンターは、プレイルームや児童館、図書館分館も備えた複合施設です。また、太陽光発電システムの導入や防災備蓄倉庫も備え、災害時における避難所としての役割も担っています。



図書室は“静”の空間



遊戯室は“動”の空間

児童館をはじめ多彩な機能を導入

み らい平コミュニティセンターの1日の来館者数は250人前後で、放課後毎日のように通ってくる小学生の姿も目立ちます。「このコミュニティセンターでよく活用されている施設は児童館やプレイルームです。児童館には“静”の空間である図書室と“動”の空間である遊戯室があり、いつも子どもたちで賑わっています。」(みらい平コミュニティセンター 田口こずえセンター長)

図書室は子どもたちが伸び伸びと過ごせるよう床にマットが敷かれ、読書以外にもカードゲームやおセロ、将棋などで遊ぶことができます。また、遊戯室ではバスケットボールやトランポリンなど様々なスポーツを楽しむことができます。「児童館と図書館を設置して欲しいという市民からの強い要望がありました。」(八木課長補佐)

プレイルームは子育て支援室として利用されており、幼児が安心・安全に過ごせる空間となっています。ここには、専門の保育士が常駐し、子育てについての相談に応じたり、身体測定やお誕生会、各種相談会といったイベントを定期的に行ったり、



トランポリン(遊戯室)



プレイルーム

同じ年代のお子さんを持つ親御さん同士の交流の場としても機能しています。また、センター内には「赤ちゃんの駅」としておむつ替えや授乳ができる空間が設けられており、様々な形で子育て家族を支援しています。

その他にも、茶道や着付け教室などに利用される和室をはじめ、多様な施設が揃っています。調理室では料理教室が開かれ、恒例のフランス料理講座はすぐに定員になるほどの人気となっています。また、防音施工された音楽スタジオでは楽器やマイクの貸出しを行っており、バンドの練習によく使われています。さらに、つくばみらい市立図書館みらい平分館では、毎月第3土曜日に、幼児・児童を対象に「おはなし会」を実施しています。約198㎡とセンターで最も広い多目的室には、可動式ステージがあり、シニア体操の会場や踊りの発表会など様々な会合が行われ、まさに「多目的」に活用されています。「つくばみらい市はサークル活動も盛んで、コミュニティセンターはそうしたサークル活動を行う場でもあります。子どもたちのみならず、ご高齢の方まで幅広い世代に利用していただきたいと思っています。」(田口センター長)



赤ちゃんの駅



音楽スタジオ

家族で参加できるイベントを 土日に開催

み

みらい平コミュニティセンターが多くの市民に利用されている理由の1つに、土日も開館(原則月曜休館)しているという点が挙げられます。休日を利用して父親が子どもと一緒にプレイルームで遊ぶといった光景もよく見られます。また、一年を通じて様々なイベントを開催していますが、土日に開催することで多くの家族と一緒に参加することができます。イベントの内容も、地元農家の協力による野菜や自家製パンの販売、紙飛行機をつくって遊ぶ大会や季節の催事に因んだものなど、地域に根差した温かみのある、誰もが気軽に参加できる企画を積極的に行っています。「コミュニティセンターに行けば何かやっているというイメージをつくりたいと思っています。この場を通じて皆さんが知り合いになって、地域の輪が広がり、地域に愛情を持つようになること、それは今も昔も大切なことです。」(田口センター長)

地域の交流を育む施設を目指して

平

平成27年11月に実施した利用者アンケートでは、「施設が新しくきれい」、「使いやすい」などの好意的な回答が多く寄せられました。また、「スタッフの対応が丁寧で良い」、「気さくに声をかけてくれる」など職員の対応についても高く評価されました。「利用者の皆さんから評価いただいた点は今後もしっかりと実践していきたいです。また、現在みらい平地区は若い世帯が多いため、子育てに関するサービスが主軸になっていますが、時代とともに市民のニーズに合わせて対応していきたいと考えています。」(八木課長補佐)

みらい平コミュニティセンターは開設されてまだ1年余りですが、すでに地域に溶け込み、住民の交流、文化活動の拠点として欠かせない存在になっています。新たな住宅開発等で人口が増え続けているつくばみらい市は、他都市からの移住者も多く、それだけにコミュニティづくりは重要なものになっています。みらい平コミュニティセンターは、地域に役立ち、地域の交流を育む施設を目指しています。



和室…毎月第3土曜日に開催される「おはなし会」や茶道教室、着付け教室などに利用されています。



調理室…人気の高いフランス料理講座など、定期的に料理教室が開催されています。



多目的室…市民サークルの発表会や会合、さらには災害時の避難施設としても機能します。



夏祭りでは、多目的室で紙飛行機飛ばし大会が開催されました。